

土と健康

2014年 No.447

1・2月合併号

日本有機農業研究会

■全国有機農業者と消費者の集い 2014 in 岩手 (雫石町)

■春夏播き種苗をお分けします



2014年3月15日(土)

会場 国学院大学渋谷キャンパス 常磐松ホール〈学術メディアセンター1F〉

■10:30~12:30■

第9回たねとりくらぶの集い (第9回日本有機農業研究会種苗研修会)

「江戸東京・伝統野菜」を広め・つなげる

講師 江戸東京・伝統野菜研究会代表 大竹道茂さん

江戸東京野菜コンシェルジュ育成協議会会長、ブログ「江戸東京野菜通信」で情報発信中
天下の台所、江戸時代の東京にはおいしい野菜やめずらしい野菜が集まっていた。
今日まで引き継がれてきた貴重な伝統野菜を守り、広め、伝える活動が行われています。
小学校や地域で広がる取組やその意義について、お話をうかがいます。

参加費 1000円(会員800円) ※今回は種苗交換会はありません。

参加申込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

主催 日本有機農業研究会 種苗部・種苗ネットワーク 協力 渋谷・環境と文化の会

問合せ TEL 03-3818-3078 mail info@joaa.net

■13:30~17:10■(受付開始13:00)

青年部主催公開セミナー 2014

食の自給は、まず種の自給から

講師 野口種苗研究所・野口のタネ 野口勲さん

農業を始めるうえで欠かせないものが種。その大事な一粒の種ですが、種の自給率の低さに気が付く農家は意外に少ないのではないのでしょうか。食料自給率をはるかに下回るひとけた台。食料自給率の前に種の自給率の問題がでてきます。
そこで固定種、在来種、F1、そして種をとりまく環境はどうなっているのか。
知っているつもりでいる種のことをもう一度学びなおしたいと思い、講演会を企画しました。今年の種まきを始める前に聞いていただければ幸いです。

参加費 1000円(会員800円)

■18:00~20:00■ ※要予約 定員20名

会場 「YAFFA ORGANIC CAFE」

渋谷駅より徒歩8分。TEL 03-6427-9988

オーガニックの野菜の味を生かした料理とお飲み物

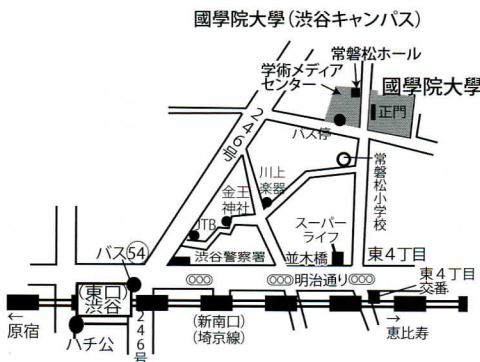
参加費 4000円 ※懇親会申込み締切 3月12日(水)

★参加費は、当日会場にていただきます。

問合せ&申込先 NPO 法人日本有機農業研究会・事務局
TEL 03-3818-3078 FAX 03-3818-3417
ホームページ <http://www.joaa.net/>
mail seinenbu@joaa.net

会場MAP

「渋谷駅」東口、都営バス54番のりば「学03日赤医療センター行」で「国学院大学前」(約10分)下車。
「渋谷駅」東口から徒歩約15分。渋谷駅・JR埼京線の新南口から徒歩約10分



第36回 日

つながりのち つ



元本会監事・坂本尚さんが昨年12月21日、逝去されました。
農山漁村文化協会元副会長、享年84歳。
本会設立時には書記、その後長年にわたり本会役員を務められ、
2008年に引退されました。
ご冥福をお祈りいたします。
写真は2008年全国大会in東京で基調講演をされたときの坂本尚さん

■本会の動き

12月23日(月) 於 文京区男女平等センター D 研修室

第43期 第6回理事會

1. 第42回 日本有機農業研究会全国大会について
日時・2014年2月23日(日)~24日(月)

会場・ホテル森の風・鶯宿温泉(岩手県岩手郡雫石町)

2. 総会・議案書について

①活動計画について ②財政について

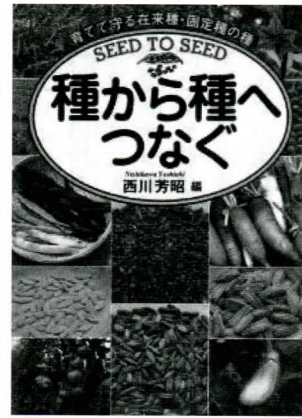
③人事について ④各部、各委員会からの報告、提案

12月27日(金) 於 東京・文京区湯島第2会館

3. 「有機農業推進基本方針」について

みなさんの有機農業公開講座 講師 館野廣幸さん

宮沢賢治の有機世界を求めて
第61回「おきなぐさ」をめぐって



種から種へつなく 育てて守る 在来種・固定種の種

西川芳昭 編

創森社

1800円＋税

いう観念が一般的になりました。それぞれの地域で、無数の農家の手によってその地域・土地にあった作物の種が守られてきたシステムから、少数の特に多国籍化学企業が種の生産と流通の主要な部分を抑えるようなシステムへと急速に変化しているとも言えます。

脅かされる農民の種子の権利

現在流通している種のほとんどは、品種登録（特許を含む）という知的財産権でその育成者の権利が保護されており、農家が自由に種を採ることが法律上制限されています。食料安全保障・食料主権の実現のためには、種の安全保障・種子に対する主権の実現が前提条件ですが、その主権が農家にとっても消費者にとっても脅かされています。

一方で、農家が種を採り続けてきた行為の重要さ・功績を認め、農家が自分で種を採り、保存し、交換するいわゆる農民の権利（外務省公式訳では「農業者の権利」）を明記している食料農業植物遺伝資源国際条約に2013年10月130番目の加盟国として日本も加わりました。

以上のような世界の状況を踏まえて、本

種子が消えれば、食べ物も消える。
そして君も

長く国際コムギ・トウモロコシ改良センター・ジーンバンク責任者をしたベント・スコウマン氏は「種子が消えれば、食べ物も消える。そして君も」という言葉を遺しています。

私たちの食べるものの生産に不可欠な投入物である種の生産（種採り）という行為は、農耕が始まって以来農家によって営々と続けられてきたことですが、いまだに知らないの人が自分で種を採っているでしょうか。

日本では、1970年前後から、わざわざ苦労して自分で種を採らなくても、高品質と言われている品種の種が簡単に購入できるようになり、「種は購入するもの」と

書では全国各地で様々な思いを込めて何らかの形で種を採り続けている農家・種商・グループ・団体の物語を、実践されている方たち自身の言葉で紡ぎました。種採りの営みが作物を作るという行為に必須の要素であり、また農家にとって楽しみのある作業であることが描かれています。

自家採種の話だけではなく、国のジーンバンクが果たす重要な役割や、遺伝子組み換え・種子消毒など種についての安心・安全を考える際に重要なことがらについての解説も含まれています。

種をつなぐ仲間をふやそう

こんなにも多くの人々が自分たちで種を採り、またネットワークを築いていることは、農の営みがこの国で続けられていく確かな可能性を見る思いがします。種を採るといふ営みを一部の企業に委ねるのではなく、農家自身が普通に続けられる社会を守るためにも、種に興味のあるすべての方がこの本を手にとってくださり、種をつなぐことの価値と可能性について考え、行動する仲間が一人でも多く増えることを願っています。

龍谷大学経済学部教授・農業・資源経済学

西川芳昭

種から種へつなぐーもくじ

「種から種へ」とつなぐために、序に代えて、第1章 作物の多様な品種の種・種子をそれぞれの地域で守る意味

西川芳昭

第2章 内外のジンバンクにおける有用な遺伝資源の保存

河瀬眞琴

第3章 在来種・固定種の種を見直し受け継いでいくために

種苗交換会や種子の冷凍保存、種苗ネットワーク化による自家採種運動

林重孝

「育種」「生産」「普及」の連携による自然農法種子の品種育成事業

原田晃伸・巴清輔・田丸和久

自家採種を勤める「変な種屋」の使命は「誰もが種採りをする世界」のための種まき

野口勲

第4章 在来種・固定種の種を守るための多様な

地域的展開

「在来作物」の再評価と利用、山形在来作物研究会と周辺の取り組みから、人と人のつながりが種をつなぐ、「いわき昔野菜」の発掘・普及

江頭宏昌

有名店によるメニュー開発から学校教育まで広がる「江戸東京野菜」復活運動

富岡都志子

集めた種を貸し出し、2倍にして返してもらおう

大竹道茂

お金で取引をしない「安曇野たねバンク」

白井朋子

土の清浄化と自家採種による種の浄化

秀明弘

然農法の取り組み、京の伝統野菜の保全・利用促進活動

桂高等学

校「京の伝統野菜を守る研究班」、松田俊彦

松田俊彦

ネイティブアメリカンの暮らしにヒントを得た

松田俊彦

伝統野菜復活と「家族野菜」いうコンセプト

松田俊彦

三浦雅之

伝統的な遺伝資源を保存・発展させ「食べる」楽しみを次代に伝えたい

小林保

地方は自然のDNAバンク「山のこころ」に耳を傾けながらの暮らし

ジョン・ムーア

種をあやし、種を採るなかで感じる小さな粒の神秘性、すばらしさ、大切さ

岩崎政利

第5章 遺伝子組み換え作物と種子消毒・輸入種子の脅威

遺伝子組み換え作物で種子・食料を支配

グローバル資本による利益優先主義の罠

安田節子

本当のことはわからない種子消毒とブラックボックスの輸入種子

辻万千子

第6章 在来種・固定種の種を「育てて守る」ということ

金子美登

帰農・就農希望者へ

帰農志塾（栃木）で 研修生募集

帰農志塾は、今まで80余名の研修生を北は北海道から南は沖縄まで卒業生として送り出してきました。今回3名の独立就農に伴い、新たな研修生を募集します。

設立以来、有機農業の普及と帰農する人が増えることを願い活動してきましたが、今後は従来の方針、希望地就農と共に地元就農も進めていこうと考えています。

その理由は、当地近隣に安価で新規就農者が入手可能な土地が多くあるからです。就農希望者と塾が協力し、地元の人達も含め協力関係を築きながら暮らし、助け合う可能性を求めていただきたいと考えています。

塾で研修し、仲間として地元で就農したい人を探しています。

真面目に就農を考えている人は是非一度おいで下さい。研修以外でも真摯な方々には就農のお手伝いをします。

隣町で独立就農した研修生の例を紹介します。今年卒塾のAさん、隣町に80aの土地を家屋、倉庫付きで350万円で入手しました。また隣接農地1ha(2万円/年)を借用しました。

こういう例は稀かとは思いますが、事実です。真面目な就農希望者は、是非ご相談ください。

帰農志塾

〒321-0604 栃木県那須烏山市中山 1041

TEL 0287-83-0930

E-mail kinousijyuku@yahoo.co.jp

HP

http://foodpia.geocities.jp/kinousijyuku/